

2015年12月9日

報道関係各位

一般社団法人日本電気計測器工業会(JEMIMA)

## 電気計測器の中期見通し2015～2019年度

2015年度の電気計測器全体の売上見込みは 5,760億円(前年度比+8.1%)、  
2016年度以降は緩やかな増加の見通し

一般社団法人日本電気計測器工業会(会長 小野木 聖二)は、当工業会の統計データをもとに2019年度までの電気計測器の需要見通し調査を行い、冊子「電気計測器の中期見通し2015～2019年度」を発行いたしました。

電気計測器全体(国内販売+輸出)の2014年度実績は、2020年度開催の東京オリンピックに向けたインフラ整備等の立ち上がり、良好な企業景況感と設備投資意欲の増加などにより、6,004億円(前年度比+7.7%)と見込みましたが、電気測定器の国内市場の落ち込み、PA計測制御機器の国内官公需投資の減少/石油精製業界の設備縮小/電力分野需要の減少などのマイナス材料を、電力量計の低圧計器の取替え需要が補う形となり、実績は5,327億円(前年度比±0.0%)と、見込みを下回りました。

2015年度は、引き続き大幅な伸びが期待される電力量計をはじめ、電気測定器とPA計測制御機器が微増となり、電気計測器全体では前年度比+8.1%の 5,760億円と見込みました。

2016年度以降は、全ての機種群で微増を見通しており、2015～2019年度の年平均成長率が+1.3%と全体でも緩やかな増加となる見通しです。

また、海外拠点の売上を含む「国内販売+輸出+海外拠点売上」ベースの2014年度の電気計測器の全体額は、海外拠点売上の減少から、前年度比-0.1%の 7,465億円となり、2015年度は、国内市場は設備投資意欲の増加などにより売上が増加し、海外拠点も資源・エネルギー関係が増加するため、前年度比+5.3%の 8,012億円を見込んでいます。2016年度以降は、世界的に堅調な景気回復を見通し、2019年度までに年平均成長率+2.2%と微増傾向で推移し、8,734億円になると見通しました。

なお、本日発行・発表の「電気計測器の中期見通し2015～2019年度」は有料で頒布致します。

「電気計測器の中期見通し2015～2019年度」発行・発表会の開催概要:

- ・ 主 催: 一般社団法人日本電気計測器工業会 調査・統計委員会
- ・ 開催日時: 2015年12月9日(水)13:30～17:00
- ・ 場 所: 全国町村会館
- ・ 参加人数: 約100名

発行刊行物: 書籍名「電気計測器の中期見通し2015～2019年度」

発 行 日: 2015年12月9日

頒 布 価 格: 一 般 : ¥8,640-(税込・送料別)

JEMIMA 会 員 : ¥3,240-(税込・送料別)

【「電気計測器の中期見通し2015～2019年度」の主な内容】

【掲載内容】

序

第1章 本書の使い方

第2章 中期見通しの概要

第3章 電気測定器（一般測定器）

第4章 P A計測制御機器

第5章 電力量計

第6章 環境計測器

第7章 放射線計測器

第8章 工業会自主統計

